

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300299		
法人名	有限会社 ヴェンヴェール		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地	佐賀県鳥栖市田代昌町462番地1		
自己評価作成日	令和7年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和7年3月27日	外部評価確定日	令和7年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>A棟は吹き抜けの造りで程よく光が差し込み、玄関や共有空間、自由に外を眺められ、バリアフリー設計ユニットになっている。B棟は民家改修型となっており、昔ながらの長廊下から外を眺められるようになっている。各棟共に、家庭的な雰囲気とゆっくりと過ごせる、住みよい空間を演出している。ご家族等の面会時間帯は制限しておらず、いつでも入りやすいオープン施設を目指している。現在は面会も緩和し、手指消毒とマスク着用での対面での面会で対応しております。医療面では、かかりつけ医との提携は勿論のこと、訪問看護師とも連携しながら、住み慣れた地域で、その人らしく生活が出来るようサポートを行っている。認知症ケアを理解し、全職員が利用者と同じ時間を過ごす中で、無理強いせず、その人らしさを大切に、関わりを持って接しています。日常生活における役割(調理補助・洗濯補助)・起床時間・食事時間・入浴時間・就寝時間等すべてにおいてご本人の“意向”に添ったケアを第一としている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>同敷地内に2ユニットのグループホームを運営されており、A棟は居室が広くりビングに多くの方が集まり生活をされている。B棟は、住宅を改修していることで、より家庭的な空間を感じることができる。鳥栖や神埼地区に同グループの介護施設があり、管理者は定期的に意見交換を行いサービス向上に向けて取り組まれている。また、災害時や食事の面でもグループの強みを活かした取り組みとなり、事業所では入居者の生活に即したサービス提供ができるように試行錯誤を行い実践されている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念を職員がわかる位置に設置し、朝礼や会議の際に唱和をすることで全職員が意識的に利用者様と関わりを持ち、理念を念頭にもって介護業務ができるように実践している。	経営理念を職員がわかる位置に設置し、朝礼や会議の際に唱和をすることで全職員が意識的に利用者様と関わりを持ち、理念を念頭にもって介護業務ができるように実践している。	会社の理念に基づき、事業所の年間目標を立案されている。また、事業所の年間目標に対して職員の個別目標があり、定期的に振り返る機会を設けられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は区の清掃活動や資源ごみ回収などに参加したり、出勤時やゴミ出しなど、ご近所さんにすれ違う際は笑顔で挨拶が出来ている。地域への関わり、取り組みを行っている。	職員は区の清掃活動や資源ごみ回収などに参加したり、出勤時やゴミ出しなど、ご近所さんにすれ違う際は笑顔で挨拶が出来ている。地域への関わり、取り組みを行っている。	管理者だけではなく、職員も地域の清掃活動に参加し交流を図られている。地区の防災組織図には、事業所も組み込まれ地域の方にも認知されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアを理解し、現場職員ともケアに関して話し合いを行い実践しているが、その内容を地域の人々へ向けて活かすことができていない。	認知症ケアを理解し、現場職員ともケアに関して話し合いを行い実践しているが、その内容を地域の人々へ向けて活かすことができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の地域運営推進会議を開催し、勉強会や参加いただいた方からの意見の内容を共有し情報交換を行なっている。また、ご要望があれば、要望に寄り添えるように努力している。	2か月に1回の地域運営推進会議を開催し、勉強会や参加いただいた方からの意見の内容を共有し情報交換を行なっている。また、ご要望があれば、要望に寄り添えるように努力している。	運営推進会議では、家族の方の参加もあり、状況に応じて利用者が参加することもできる。参加できない家族に関しては、会議の議事録を配布され内容が周知されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	鳥栖広域介護保険課と連絡をとり、ケアサービスが円滑に行くよう関係を築いている。	鳥栖広域介護保険課と連絡をとり、ケアサービスが円滑に行くよう関係を築いている。	鳥栖広域のグループホーム協議会では、管理者が副会長を務められ行政と連携を図られている。また、鳥栖市が主催する介護の日フェスタにも協力されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、自己学習、ミーティング、資料回覧によって全職員の理解を深め、実践している。施設内研修の計画を立てており、正しい理解が深まるよう実践している。	外部研修、自己学習、ミーティング、資料回覧によって全職員の理解を深め、実践している。施設内研修の計画を立てており、正しい理解が深まるよう実践している。	年に4回の委員会と研修会を開催し、身体拘束に関する知識と理解を深められており、拘束しないケアを実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、自己学習、ミーティングを通して虐待防止について理解し、日々の介護業務の中で心身のみならず、言葉による虐待がないよう意識をもったケアが出来ている。	外部研修、自己学習、ミーティングを通して虐待防止について理解し、日々の介護業務の中で心身のみならず、言葉による虐待がないよう意識をもったケアが出来ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員がミーティング、資料回覧で学ぶ機会を持っている。また職員の一部は外部研修、自己学習を通して理解を深めている。	全職員がミーティング、資料回覧で学ぶ機会を持っている。また職員の一部は外部研修、自己学習を通して理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結時には必ず契約書及び重要事項説明書を音読し、疑問点があれば、それを解消された上で、署名、捺印していただいている。	締結時には必ず契約書及び重要事項説明書を音読し、疑問点があれば、それを解消された上で、署名、捺印していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書・重要事項説明書に、その方法を明記している。また、玄関には意見箱を設けている。運営推進会議への家族参加が難しいため促しを行ない、家族と意見交換の場を作るように勤めている。	契約書・重要事項説明書に、その方法を明記している。また、玄関には意見箱を設けている。運営推進会議への家族参加が難しいため促しを行ない、家族と意見交換の場を作るように勤めている。	管理者が中心となり、面会や電話連絡の際に状況を伝え直接意見を把握されている。日頃から利用者や家族とコミュニケーションを図ることで意見が言いやすい関係性を構築されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて意見、提案を聞く時間を設けている。また日々の業務の中でも意見があれば、報告を受け、解決、改善できるよう話し合いを行っている。	ミーティングにて意見、提案を聞く時間を設けている。また日々の業務の中でも意見があれば、報告を受け、解決、改善できるよう話し合いを行っている。	ミーティングの中でサービス向上に向けた話し合いを行い、居室の温度や湿度がわかるようにしたり、ポータブルトイレを毎月洗浄するなど職員の小さな意見にも耳を傾け、改善に努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤手当・役職手当・資格手当等細分化した給与形態になっている。勤務日数や時間は個々の条件にそって働けるよう調整を行っている。	夜勤手当・役職手当・資格手当等細分化した給与形態になっている。勤務日数や時間は個々の条件にそって働けるよう調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人・外部研修は勤務時間として認める場合と、そうでない場合があるが、施設内研修を含め、公平に参加できるよう勤務調整を行っている。人手不足で思うような参加ができていないのも現状である。	法人・外部研修は勤務時間として認める場合と、そうでない場合があるが、施設内研修を含め、公平に参加できるよう勤務調整を行っている。人手不足で思うような参加ができていないのも現状である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鳥栖地区介護保険課主催の研修会へ参加したり、グループホーム連絡協議会に加入し、他事業者との交流を図っている。	鳥栖地区介護保険課主催の研修会へ参加したり、グループホーム連絡協議会に加入し、他事業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前の段階で特別な場合を除き、体験利用、体験宿泊利用を提案し、不安や要望等に応えながら、利用開始時に本人が安心して利用できる関係づくりに努めている。	サービス利用前の段階で特別な場合を除き、体験利用、体験宿泊利用を提案し、不安や要望等に応えながら、利用開始時に本人が安心して利用できる関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前より自宅や病院に訪問を重ね、現在生活されている場所や環境の中で困っていること、要望に、本人を含め家族と話し合うことを基本としている。	契約前より自宅や病院に訪問を重ね、現在生活されている場所や環境の中で困っていること、要望に、本人を含め家族と話し合うことを基本としている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人含め家族と面談し、その時点でADL(日常生活動作)・認知症自立度を見極め、医療はもとより必要なサービスの紹介、説明をしている。	本人含め家族と面談し、その時点でADL(日常生活動作)・認知症自立度を見極め、医療はもとより必要なサービスの紹介、説明をしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを探し、その能力を引き出せるよう一緒に家事活動をしたり、日々の暮らしを共にしている。なるべく自発的に出来ることは尊重をして行っている。	本人の出来ることを探し、その能力を引き出せるよう一緒に家事活動をしたり、日々の暮らしを共にしている。なるべく自発的に出来ることは尊重をして行っている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時は本人の状態を報告し理解してもらい、日々の様子などを細かくお伝えしている。利用者を主体に家族、職員とコミュニケーションをとり、相談や要望、意見をもらいながら関係を築いている。	ご家族の面会時は本人の状態を報告し理解してもらい、日々の様子などを細かくお伝えしている。利用者を主体に家族、職員とコミュニケーションをとり、相談や要望、意見をもらいながら関係を築いている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・ご親戚・友人の面会時は対面での面会で、会話を楽しみ、コミュニケーションをとられている。また、面会時間をしっかりと確保していただきたいため、事前予約を入れてもらうようにしている。	ご家族・ご親戚・友人の面会時は対面での面会で、会話を楽しみ、コミュニケーションをとられている。また、面会時間をしっかりと確保していただきたいため、事前予約を入れてもらうようにしている。	現在は感染予防の観点により、玄関先での面会となっており、事前の予約が必要である。家族対応であれば自由に外出は可能となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、座席等を配慮している。また意思疎通が図れない、付き合いが苦手な利用者にも、極力交流ができるよう、活動への参加、共有スペースと一緒に時間を過ごせるよう職員が介入し、関係性を築ける環境作り心にかけている。	利用者同士の関係性を把握し、座席等を配慮している。また意思疎通が図れない、付き合いが苦手な利用者にも、極力交流ができるよう、活動への参加、共有スペースと一緒に時間を過ごせるよう職員が介入し、関係性を築ける環境作り心にかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度に関しては医療機関入院での契約終了や他施設等への転居などなく、対象者がいない。もし、あった場合は必要に応じて本人・家族の経過をフォローし相談や支援に努める。ご逝去された方のご家族様への対応は数か月かかわりを持ち哀しみのフォローを行なっている。	今年度に関しては医療機関入院での契約終了や他施設等への転居などなく、対象者がいない。もし、あった場合は必要に応じて本人・家族の経過をフォローし相談や支援に努める。ご逝去された方のご家族様への対応は数か月かかわりを持ち哀しみのフォローを行なっている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の希望、意向に沿って介護計画作成を行い、本人本位の支援が出来るよう努めている。また、定期的にカンファレンスを開催し、ご利用者一人一人の把握に努めている。	ご本人の希望、意向に沿って介護計画作成を行い、本人本位の支援が出来るよう努めている。また、定期的にカンファレンスを開催し、ご利用者一人一人の把握に努めている。	生活の中で、利用者が望まれる生活を把握し、サービス提供に繋げられるように検討されている。ご家族には、毎月のお便りの中に介護計画実施状況を報告されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活での会話や、家族からの情報をもとに、本人の状態やサービス利用の経過が把握出来るよう努めている。また、過去の生活歴や本人の生活を把握し理解した上でのケアを実施している。	日々の生活での会話や、家族からの情報をもとに、本人の状態やサービス利用の経過が把握出来るよう努めている。また、過去の生活歴や本人の生活を把握し理解した上でのケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記の情報に加え、日々の様子を介護記録、個人ノート等に気づきを残し、申し送りを密に行うことで、全職員が状態を把握出来るようにしている。	上記の情報に加え、日々の様子を介護記録、個人ノート等に気づきを残し、申し送りを密に行うことで、全職員が状態を把握出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、本人、家族、職員にて、カンファレンスを行い、医療的側面については、かかりつけ医、訪問看護師の意見を取り入れながら、計画書を見て本人の顔が浮かぶ、その人らしさが見える介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心に、本人、家族、職員にて、カンファレンスを行い、医療的側面については、かかりつけ医、訪問看護師の意見を取り入れながら、計画書を見て本人の顔が浮かぶ、その人らしさが見える介護計画を作成している。	介護計画の更新に基づき、ご家族の意見を事前に確認される。また毎月実施しているモニタリングとフェイスシートを更新することで、現状に即した介護計画が立案できる仕組みとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をもとに日々の生活からの状態変化、気づきがあれば申し送りや記録物に情報を残し、職員間で共有している。問題点、改善点があれば、見直し、カンファレンスを開き次の介護計画に活かしている。	介護計画をもとに日々の生活からの状態変化、気づきがあれば申し送りや記録物に情報を残し、職員間で共有している。問題点、改善点があれば、見直し、カンファレンスを開き次の介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2週間に1回の定期往診(内科)以外の病院受診の場合、家族に同行を依頼しているが、都合にて同行していただけない時には職員が同行している。また必要物品の買い物についても家族と密に連絡をとりながら柔軟に対応している。	2週間に1回の定期往診(内科)以外の病院受診の場合、家族に同行を依頼しているが、都合にて同行していただけない時には職員が同行している。また必要物品の買い物についても家族と密に連絡をとりながら柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の身体状況を把握したうえで必要な地域資源を活用し、日々の生活を支援している。	ご本人の身体状況を把握したうえで必要な地域資源を活用し、日々の生活を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	契約前に事前に主治医を聞き取り、 情報交換や共有を行ない、適切な 医療が受けられるように努めてい る。また、訪問看護との連携を密に 行ない、主治医への報告が円滑と なり、病気やけがに対しての早期発 見と重症化を防いでいる。	契約前に事前に主治医を聞き取り、 情報交換や共有を行ない、適切な 医療が受けられるように努めてい る。また、訪問看護との連携を密に 行ない、主治医への報告が円滑と なり、病気やけがに対しての早期発 見と重症化を防いでいる。	かかりつけ医の継続を基本と考えら れ、協力医療機関へ変更した場合 は月に2回の往診を受けることが可 能となる。歯科も協力体制を構築さ れており、月に1回の往診が可能で ある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえ た情報や気づきを、職場内の看護職員や 訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利 用者が適切な受診や看護を受けられるよ うに支援している	日々の個人記録、個人ノートにて情 報を共有している。訪問看護師が週 に1回、かかりつけ医の往診時に合 わせて情報を共有している。また 個々の利用者の状態を介護職員か ら健康管理日誌で報告するシステ ムをとっている。その他にも医療連 携を利用し、訪問看護とも連携を 図っている。	日々の個人記録、個人ノートにて情 報を共有している。訪問看護師が週 に1回、かかりつけ医の往診時に合 わせて情報を共有している。また 個々の利用者の状態を介護職員か ら健康管理日誌で報告するシステ ムをとっている。その他にも医療連 携を利用し、訪問看護とも連携を 図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、入院期間の情報 収集、退院にあたっての状況は 入院先のソーシャルワーカーと連携 を取り合っている。また、入院内容 によっては訪問看護に退院後の様 子観察として1か月特別指示として 医療連携を図っている。	入院時の情報提供、入院期間の情報 収集、退院にあたっての状況は 入院先のソーシャルワーカーと連携 を取り合っている。また、入院内容 によっては訪問看護に退院後の様 子観察として1か月特別指示として 医療連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所のできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	家族が希望した場合、事業所の看 取りケア指針にもとづき、かかりつ け医や家族、職員間での情報交 換、共有を行い、支援に取り組んで いる。	家族が希望した場合、事業所の看 取りケア指針にもとづき、かかりつ け医や家族、職員間での情報交 換、共有を行い、支援に取り組んで いる。	契約時より終末期の意向を確認さ れており、施設で看取りを実施す ることができる。しかし、痰吸引など医 療行為が必要になると対応出来な い場合もある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。緊急連絡網を全員が周知し、定期的な緊急時の訓練を消防署の指導にて実施している。また施設内研修に取り入れている。	緊急時対応マニュアルを作成している。緊急連絡網を全員が周知し、定期的な緊急時の訓練を消防署の指導にて実施している。また施設内研修に取り入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を通して、昼間・夜間想定で消防署指導(立会い)にて行っている。地域との協力体制までには至っておらず、運営推進会議等での課題となっている。	防災訓練を通して、昼間・夜間想定で消防署指導(立会い)にて行っている。地域との協力体制までには至っておらず、運営推進会議等での課題となっている。	事業継続計画をグループ全体で立案することで他事業所との連携も可能となっている。備蓄食についてもグループ内で管理されており、災害の際に配達されるようになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての利用者において様々な人生を歩んでこられた先輩であることを常に意識し、言葉使いには特に気を配り、本人の立場になって、わかりやすい言葉かけや、馴染みある方言を使い、その時の気分などを考慮しながら対応している。	全ての利用者において様々な人生を歩んでこられた先輩であることを常に意識し、言葉使いには特に気を配り、本人の立場になって、わかりやすい言葉かけや、馴染みある方言を使い、その時の気分などを考慮しながら対応している。	接遇面に関しては、管理者が指導されており、職員との面談で振り返り適切な声かけができるよう促されている。職員には認知症の理解を深めてもらい、尊厳のあるサービスが提供できるよう職員間で話し合わせ、適切なケアを目指されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情を観察することにより、伝えたいこと、その真意を汲み取れるよう努力している。また言葉で意思を伝えられる利用者には、本音の希望が言える信頼関係、自己決定しやすい環境を築けるよう努めている。	本人の表情を観察することにより、伝えたいこと、その真意を汲み取れるよう努力している。また言葉で意思を伝えられる利用者には、本音の希望が言える信頼関係、自己決定しやすい環境を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の身体状況を見ながら、個々の生活のスタイルを継続できるよう、本人のペースに合わせた個別ケアを行っている。言語による訴えがある方においては、その意思を最重要視し、入浴時間・食事時間等臨機応変に対応している。	日々の身体状況を見ながら、個々の生活のスタイルを継続できるよう、本人のペースに合わせた個別ケアを行っている。言語による訴えがある方においては、その意思を最重要視し、入浴時間・食事時間等臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪については、訪問サービスの理美容を利用している。笑顔が見られる瞬間でもある。入浴時に着替えを選んでもらっている。意思の決定が難しい場合はローテンションで、コーディネート出来るよう配慮している。	整髪については、訪問サービスの理美容を利用している。笑顔が見られる瞬間でもある。入浴時に着替えを選んでもらっている。意思の決定が難しい場合はローテンションで、コーディネート出来るよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜を使用し季節を感じていただいている。また配膳後に、ひとつひとつの素材を言いながらメニュー発表を行っている。茶碗拭き、テーブル拭き、料理のつぎ分け等の役割や、一緒に関わりを持つことで、食べる楽しみが出来るよう支援している。	旬の野菜を使用し季節を感じていただいている。また配膳後に、ひとつひとつの素材を言いながらメニュー発表を行っている。茶碗拭き、テーブル拭き、料理のつぎ分け等の役割や、一緒に関わりを持つことで、食べる楽しみが出来るよう支援している。	グループ内の給食部門よりチルド食が配達され、職員が調理を行い提供されている。利用者や現場の声は、給食部門の代表者へ管理者が連絡を行い、意見の反映や改善に努められている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療的に制限のある方については特に配慮している。また、ご利用者によっては茶碗の大きさやスプーンの材質等の工夫をしている。介助を要する場合、食事摂取時間への配慮、キザミ食やミキサー食の食事形態等それぞれにも工夫を凝らしている。	医療的に制限のある方については特に配慮している。また、ご利用者によっては茶碗の大きさやスプーンの材質等の工夫をしている。介助を要する場合、食事摂取時間への配慮、キザミ食やミキサー食の食事形態等それぞれにも工夫を凝らしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助を要する利用者は職員が対応している。口腔ケアを嫌う利用者には状況に応じ、付き添う職員を変えたり、時間を空けるなどして対応している。また訪問歯科診療は、ご家族と相談し要望に応じている。	介助を要する利用者は職員が対応している。口腔ケアを嫌う利用者には状況に応じ、付き添う職員を変えたり、時間を空けるなどして対応している。また訪問歯科診療は、ご家族と相談し要望に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人別排泄状況表をもとに、本人の生活リズムに応じた言葉かけ、パットやオムツの種類の調整を行いながら、介助を行っている。また、過剰介助にならないよう気を配り、その手順を全介助から少しでも自立できるよう支援している。	個人別排泄状況表をもとに、本人の生活リズムに応じた言葉かけ、パットやオムツの種類の調整を行いながら、介助を行っている。また、過剰介助にならないよう気を配り、その手順を全介助から少しでも自立できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導を基本とされている。おむつやパットの使用量が増えた場合は、なぜ増えているのかを把握し、少しでも家族の負担が減るように事業所としてパットの選定や排泄介護の技術向上に図られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便確認を行い、介護日誌や個人記録で状態を把握し、また服薬だけに頼る考えではなく、水分管理、日中の運動、腹部マッサージなど可能な限り自然排便に繋がるよう取り組んでいる。	日々の排便確認を行い、介護日誌や個人記録で状態を把握し、また服薬だけに頼る考えではなく、水分管理、日中の運動、腹部マッサージなど可能な限り自然排便に繋がるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人と相談し、希望に添えるようにしている。皮膚状態・体調には細心の注意を払い、シャワー浴・足浴対応は臨機応変に行っている。入浴準備から入浴終了まで時間を要する利用者については、本人のペースに合わせ、時間を調整し、楽しめるよう支援している。	本人と相談し、希望に添えるようにしている。皮膚状態・体調には細心の注意を払い、シャワー浴・足浴対応は臨機応変に行っている。入浴準備から入浴終了まで時間を要する利用者については、本人のペースに合わせ、時間を調整し、楽しめるよう支援している。	3日ごとの入浴を基本としており、介護度の高い方はシャワー浴での対応となる。嫌がる方の場合には柔軟に対応され、清潔の保持に努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室のベッドや共有のソファで、それぞれの生活習慣に合わせた休息の支援を行っている。ソファで他の利用者に配慮しながら支援している。	居室のベッドや共有のソファで、それぞれの生活習慣に合わせた休息の支援を行っている。ソファで他の利用者に配慮しながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が内服薬を把握するために、毎日トリプルチェックを行っている。追加処方や頓服薬についての管理も同様に全スタッフが分かりやすいよう往診ノートやチェック表を用い管理している。また薬局との連携を図り助言を受けている。	全職員が内服薬を把握するために、毎日トリプルチェックを行っている。追加処方や頓服薬についての管理も同様に全スタッフが分かりやすいよう往診ノートやチェック表を用い管理している。また薬局との連携を図り助言を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣向を大切にし、いつでも楽しめる環境を整備している。特に趣味のない利用者については、職員が言葉をかけ、ゲーム・歌・かるたなどを行っている。好天気時は施設敷地内散歩ももちろんである。また、外出レクリエーション等も増やしていき、「グループホームだから・・・難しいよね」という概念をなくしていく。	個人の趣向を大切にし、いつでも楽しめる環境を整備している。特に趣味のない利用者については、職員が言葉をかけ、ゲーム・歌・かるたなどを行っている。好天気時は施設敷地内散歩ももちろんである。また、外出レクリエーション等も増やしていき、「グループホームだから・・・難しいよね」という概念をなくしていく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や身体状況をみながら、行事として季節を感じられるような外出支援(花見・ドライブ)を増やして、ご入居者様のきらきらした表情を増やすように取り組んでいる。	季節や身体状況をみながら、行事として季節を感じられるような外出支援(花見・ドライブ)を増やして、ご入居者様のきらきらした表情を増やすように取り組んでいる。	外食行事では、ミキサー食が必要な方に対してテイクアウトを行い事業所で食べやすい形態へ変更し提供されている。5月には鯉のぼり見学が予定されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、実践したいと考えている。ほとんどの利用者は金銭の管理は難しく、個人の嗜好品などを購入した時は、利用者、ご家族に伝えている。	本人の希望があれば、実践したいと考えている。ほとんどの利用者は金銭の管理は難しく、個人の嗜好品などを購入した時は、利用者、ご家族に伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんどの利用者が電話を使用することがないが、電話をかけたい希望があれば、いつでも電話をお渡しし、ご本人がダイヤルプッシュし、かけたい相手につながるよう、状況に応じて見守り支援している。	ほとんどの利用者が電話を使用することがないが、電話をかけたい希望があれば、いつでも電話をお渡しし、ご本人がダイヤルプッシュし、かけたい相手につながるよう、状況に応じて見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、エアコン・換気扇・カーテンにてそれぞれコントロールしている。また、オープンキッチンからの生活音は、日常生活に欠かせないものとなっている。	玄関ホール・ダイニングには季節の花を生けている。共有の空間は、エアコン・換気扇・カーテンにてそれぞれコントロールしている。また、オープンキッチンからの生活音は、日常生活に欠かせないものとなっている。	リビングは天井が高く利用者の習字や作品が掲示され、多くの利用者がリビングに集まり生活をされている。廊下には障害物もなく、安全に生活できる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファが一台あり、自由にかけて過ごしていただくことが出来る。また、一つのテーブルに集まり他者との活動を楽しめる空間を作っている。	リビングにソファが一台あり、自由にかけて過ごしていただくことが出来る。利用者間での心身の状況でトラブルも多くあるため、個々でテーブルを設けている。活動を行うときはテーブルを合わせて同じ活動を行うこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れたものを持参していただき自宅の寝室と同じような配置にしている。自作の手工芸品・家族写真等の装飾品も心地よい空間を演出している。	自宅から使い慣れたものを持参していただき自宅の寝室と同じような配置にしている。自作の手工芸品・家族写真等の装飾品も心地よい空間を演出している。	持ち込みの制限はなく、テレビや遺影などを持ち込まれているケースがある。ベッドは準備されているが布団やシーツは家族が準備をする必要がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋を決める場合、食堂までの距離やトイレとの位置関係・テーブルやソファの配置・各利用者のADL(日常生活動作)レベルを考慮しながら決定している。また全職員、リスクに対する意識向上を図り、利用者が安全に生活ができる空間づくりに努めている。	部屋を決める場合、食堂までの距離やトイレとの位置関係・テーブルやソファの配置・各利用者のADL(日常生活動作)レベルを考慮しながら決定している。また全職員、リスクに対する意識向上を図り、利用者が安全に生活ができる空間づくりに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)			1. ほぼ全ての利用者の
		○	○	2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)			1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
		○	○	3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
		○	○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果		
		ユニットA	ユニットB	
↓該当するものに○印をつけてください				
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない